

策定年月	令和5年2月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆国産化プラン

産地名：北海道・長沼町

（作成主体：長沼町地域農業再生協議会）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

《小麦》

【当地区における麦生産の現状と課題】

- ・ 肥料価格の高騰による生産コスト増
- ・ 集中した降雨後の天水停滞による農作業遅延

【課題解決に向けた取組】

- ・ 土壌診断に基づき施肥量を適正化、化学肥料・化学農薬を低減することにより低コスト化を図る。
- ・ ドローン等のスマート農業機器の活用により、省力化と適期作業を実現する。
- ・ 栽培技術検討会等を開催し、これらを周知する。

⇒ 産地として肥料情勢や天候に影響されにくい生産基盤を構築し、生産規模の拡大を目指す。

《大豆》

【当地区における大豆生産の現状と課題】

- ・ 肥料価格の高騰による生産コスト増
- ・ 集中した降雨後の天水停滞による農作業遅延

【課題解決に向けた取組】

- ・ 土壌診断に基づき施肥量を適正化、化学肥料・化学農薬を低減することにより低コスト化を図る。
- ・ ドローン等のスマート農業機器の活用により、省力化と適期作業を実現する。
- ・ 栽培技術検討会等を開催し、これらを周知する。

⇒ 産地として肥料情勢や天候に影響されにくい生産基盤を構築し、生産規模の拡大を目指す。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

長沼町

【小麦】	R4年産（現状）	1,600トン	R7年産（目標）	2,200トン
【大豆】	R4年産（現状）	340トン	R7年産（目標）	500トン

連携を図る実需者（予定）

【小麦】～ホクレン農業協同組合連合会

令和4年産民間流通麦取扱見込み 約50万t

令和4年産民間流通主な麦販売先

非公表

【大豆】～ホクレン農業協同組合

令和4年産全農北海道集荷見込み 約1,200千俵

令和4年産JAながぬま主な契約栽培先

非公表

実需者の意向や市況等の情報は、ホクレン農業協同組合連合会が仲介役となり情報を整理した後、JAながぬまを通じて生産者へと伝達する。

産地としての生産の意向は、JAながぬまが取りまとめ、ホクレン農業協同組合連合会を通じて実需者へと伝達する。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

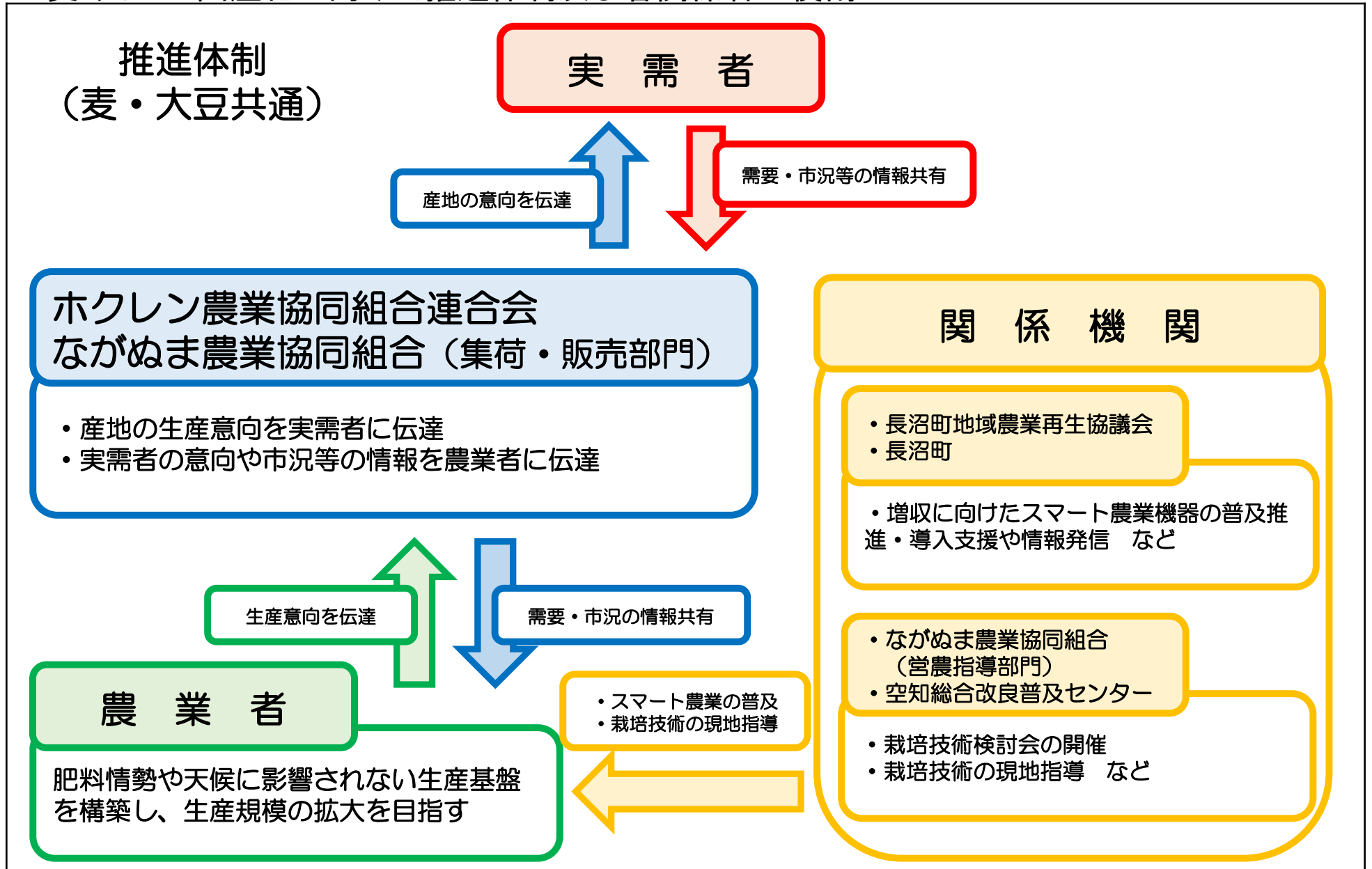
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。